



TITLE:

# 黒潮生物研究所付近の有クラゲ類 (その1)

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 黒潮生物研究所付近の有クラゲ類(その1). Kuroshio Biosphere 2012, 8: 19-22

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179228>

RIGHT:

© 2012 黒潮生物研究財団

黒潮生物研究所付近の有クラゲ類（その 1）  
**MEDUSOZOA COLLECTED FROM  
AROUND THE BIOLOGICAL INSTITUTE ON KUROSHIO (NO. 1)**

By

久保田信<sup>1</sup>  
**Shin KUBOTA<sup>1</sup>**

概要

**Abstract**

At least 17 species of Medusozoa were collected from around the Biological Institute on Kuroshio by snorkeling (on rocky shore around the institute), plankton net tow (at Komame harbor) and beachcombing on October 10 and 11, 2011. They were 10 species of hydropolyp, 6 species of hydromedusae, and 1 species of scyphopolyp.

はじめに

**Introduction**

これまで黒潮生物研究所付近の腔腸動物については花虫類に関する報告がほとんど全てで、有クラゲ類については、宿毛からカイヤドリヒドラクラゲと黒潮生物研究所付近からベニクラゲが報告されているだけであった（Kubota 1992; 久保田 2008）。今回、黒潮生物研究所付近での短期間の有クラゲ類相の調査の結果、発見できた刺胞動物門に属するヒドロ虫綱と鉢虫綱に属する種を記録する。今後も同様の研究調査を実施予定なので、今回の結果をその 1 として報告する。

材料と方法

**Materials and methods**

2011 年 10 月 10 日と 11 日の両日に、黒潮生物研究所前の岩礁（図版 1 A, 青矢印）に付着する有クラゲ類のポリプを、イラモ 1 種を除き、干潮時にシュノーケリングで見つけ次第（水深 1 m 以浅）ステンレスナイフで群体の一部を剥ぎ取り採取した（少なくとも 9 種発見）。それらを研究所にすぐに持ち帰り、実体顕微鏡でポリプの同定を行なった。

---

1. 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所  
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University,  
459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211 Japan.

クラゲ類は、潮が満ちてきた午後の時間帯に、研究所付近の最も波静かな、台風時、避難港として機能する古満目の港内で、岸壁に沿って湾の最奥から入口まで計 4 箇所（計 100 m の距離）でプラントンネットの水平曳により採取した（少なくとも 6 種採取）。プランクトンは採集直後にアイスノンで冷やして発泡スチロールの容器に収容して研究所まで持ち帰り、採集後数時間以内に双眼実体顕微鏡でヒドロクラゲを観察し同定を終了した。

その他の調査として、2011 年 10 月 11 日午前中に、研究所左手の浜（図版 1 A, 黄矢印）に打ち上げられた有クラゲ類の採集を行なった（1 種のみ発見）。また同日、古満目の港内の岸壁の階段に付着していた 1 個体のムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* Lamarck を発見し、解剖してカイヤドリヒドラ類の共生状況を検査した（1 種発見）。カイヤドリヒドラ類の共生状況を検査は上記とは別に、2011 年 10 月 11 日の午前中にシュノーケリングで岩礁の穴から採集した 5 個体のカリガネイガイ *Barbatia virescens* (Reeve)でも行なった。

採取したこれら全てのヒドロ虫類の標本は同定の完了直後にホルマリ海水で固定し、黒潮生物研究所に保管した（BIK-Hyd-1~4）。

## 記載

### Description

#### ヒドロ虫綱 Class Hydrozoa

ヒドロポリプとヒドロクラゲに分けて記録するが、ごく若い未成熟クラゲで同定が困難だった少なくとも数種は以下のリストにのせず、管クラゲ類はすべてをまとめて記録する。以下、種のリストアップは、和名のあいうえお順に列挙する。

#### ヒドロポリプ Hydropolyp

##### 1. ウミサカヅキガヤ科の一種 Campanulariidae sp.

分岐しない小さな 2 群体は、どちらも生殖体を形成していなかったもので、科までしか同定できなかった。

##### 2. エダウミヒドラ属の一種 *Eudendrium* sp.

分岐しない小さな 1 群体は、生殖体を形成していなかったもので、属どまりの同定となった。

##### 3. オウギウミヒドラ *Solanderia secunda* (Inaba)

高さ 20 cm までの平面的な 4 群体を発見し、1 群体の枝先の一部を採取したが、生殖体が形成されていた（図版 1 B）。

##### 4. カイヤドリヒドラクラゲ *Eugymnanthea japonica* Kubota

古満目産の前後軸長 35 mm のムラサキイガイの左右両側の内蔵塊と左側の外套膜に、多数のポリプ個虫が付着していたが（図版 1 C）、黒潮生物研究所前のカリガネイガイからは見つからなかった。ムラサキイガイのどの体部位に見られた個虫も、多数がよく

発達したクラゲ芽を形成していた。なお後述するように、本種のクラゲが1個体だがプランクトンネット曳きで採取された。ムラサキイガイは黒潮生物研究所付近では極めて稀であり、今回発見・採集されたのは1個体だけだった。岸壁やロープにびっしり付着しているイガイ類はヒバリガイモドキだった。マガキを検査すれば恐らく本種の共生がみられるであろう。なお、柏島の浮き桟橋や岸壁にもムラサキイガイの付着は全くみられなかったが、ロープなどにハネウミヒドラ *Pennaria disticha* Goldfuss のポリプ群体が多数みられた。ハネウミヒドラは研究所付近では見つからなかった。

#### 5. ギンカクラゲ *Porpita porpita* (Linnaeus)

共肉部が形を保たず溶けかかった数個体を磯浜一箇所の漂着物として採取。なお、クラゲと名前がついているが本種の群体はポリプとみなされる。

#### 6. シロガヤ *Aglaophenia whiteleggei* Bale

分岐がない高さ2 cm 未満に小さな羽根状の群体にコルビュラが形成されていた。

#### 7. チガイウミスギ *Dynamena crisioides* Lamouroux

分岐する数群体に生殖体は形成されていない。

#### 8. テングサウミカビ *Amphisbetia pacifica* Stechow

分岐しない1群体を採取したが、生殖体が形成されていた。

#### 9. ヒゲガヤ *Antenella secundaria* (Gmelin)

分岐しない1群体しか発見されなかったが、生殖体が形成されていた。

#### 10. ホソガヤ属の一種 *Halecium* sp.

分岐した群体と分岐しないものが採取されたが、どちらにも生殖体は形成されていなかった。2種かもしれないが、1種として取り扱っておく。

### ヒドロクラゲ *Hydromedusa*

#### 1. カイヤドリヒドラクラゲ *Eugymnanthea japonica* Kubota

1個体のみ成熟クラゲが採取された。

#### 2. 管クラゲ類 *Siphonophora*

3種? 3個体が採取されたが、そのうちの1個体はユードキシッドだった。

#### 3. カラカサクラゲ *Liriope tetraphylla* (Chamisso and Eysenhardt)

2個体のごく若い未成熟クラゲが採取された。

#### 4. コツブクラゲ *Podocoryne minima* (Trinci)

クラゲ芽を形成した未成熟クラゲが約20個体余り採取され、今回、最も多くの個体が得られたが、これは無性生殖のためであると推察される。

#### 5. サルシアウミヒドラ属の1種? *Sarsia* sp.

8個体のごく若い未成熟クラゲが採取されたが、ジュズクラゲ属 *Dipurena* に成長するかもしれない。2種以上が混じっている可能性もある。

#### 6. スズブリクラゲ *Zanclea prolifera* Uchida and Sugiura

数個体の未成熟クラゲが採取され、ほとんどの個体が口柄に多数のクラゲ芽を無性出芽していた (図版1D)。

## 鉢虫綱 Class Scyphozoa

### 1. イラモ *Stephanoscyphus racemosum* Komai

多数の群体が研究所前の岩礁のあちこちに生息する。大きいものは大人の握りこぶし大に成長している。

## 謝辞

## Acknowledgements

採集のご便宜を計って下さった黒潮生物研究所所長の岩瀬文人氏に深謝致します。

## 引用文献

## References

Kubota, S. 1992. Four bivalve-inhabiting hydrozoans in Japan differing in range and host preference. *Sci. Mar.*, 56(2-3): 149-159.

久保田信, 2008. 高知県でのベニクラゲ（ヒドロ虫綱、花クラゲ目）の初出現と旧体の口柄に接続してポリプへ若返った第2記録. *Kuroshio Biosphere*, 4: 29-32+1Pl.

## 図版 1 の説明

## Explanation of plate 1

図 A. 黒潮生物研究所前の調査地点の岩礁（青矢印）と浜（黄色矢印）

Figure A. Sampling sites of rocky shore (blue arrows) and beach (yellow arrow) around the Biological Institute on Kuroshio.

図 B. オウギウミヒドラの生殖体を形成した群体の一部

Figure B. A part of the colony of *Solanderia secunda* (Inaba) with gonophores.

図 C. ムラサキイガイの軟体部に付着するカイヤドリヒドラクラゲのクラゲ芽を形成したポリプ個虫

Figure C. Polyp zooids with medusa buds of *Eugymnanthea japonica* Kubota attached to soft body parts of *Mytilus galloprovincialis*.

図 D. 多数のクラゲ芽をつけたスズブリクラゲの未成熟クラゲ

Figure D. Immature medusa with many medusa buds of *Zanclea prolifera* Uchida and Sugiura.



図版1

PLATE 1

